令和５年１０月吉日

TOPICS VOL.221

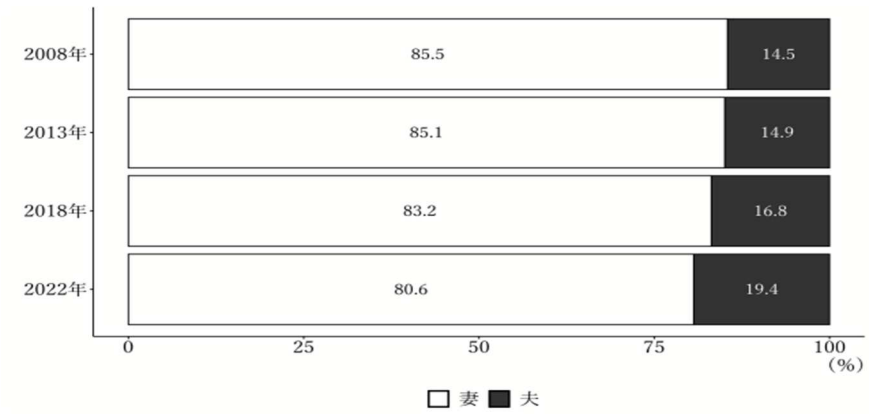
代表・特定社会保険労務士　山口 徹実
社会保険労務士　倉井　舞
URL http://co-js.com/　E-mail info@co-js.com　TEL 028-643-8000　FAX 028-643-8530

第７回全国家庭動向調査（２０２２）から

今年の８月に、国立社会保障・人口問題研究所から「第７回全国家庭動向調査」の結果が公表されました。この調査は、出産・子育ての現状、家族関係の実態を明らかにし、家庭機能の変化の動向や要因を明らかにするための調査です。

今回の報告は、結婚経験のある女性がいる世帯のうち、現在配偶者がいる女性（妻）が回答した5,518票の集計結果をとりまとめたものです。その一部を抜粋してレポートします。

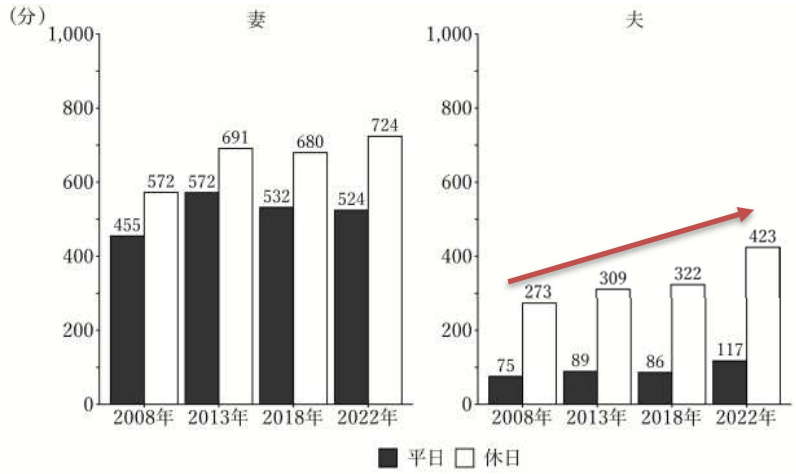
１．妻と夫の間での家事分担割合の平均



妻の分担する割合が圧倒的に高く、いずれの調査でも80%を超える。

2008年調査から2022年調査にかけて、妻の分担する割合が低下し、夫の分担する割合が微増している。

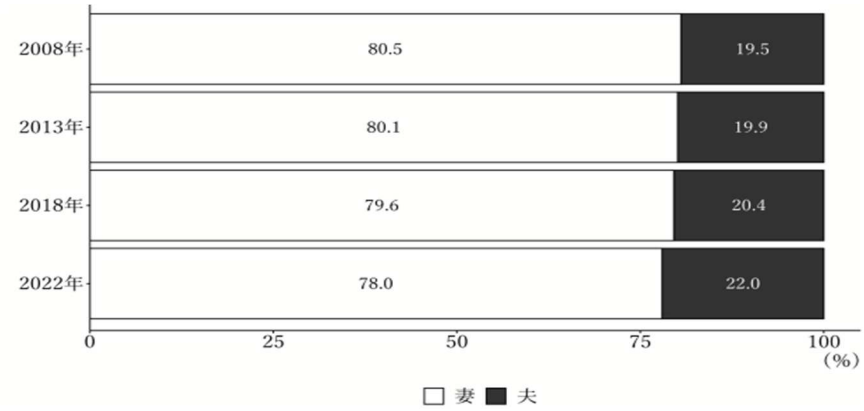
２．１日の平均育児時間



妻の１日の平均育児時間は、2018年調査より平日は減少したものの、休日は増加した。一方で、夫の1日の平均育児時間は、平日・休日ともに増加した。

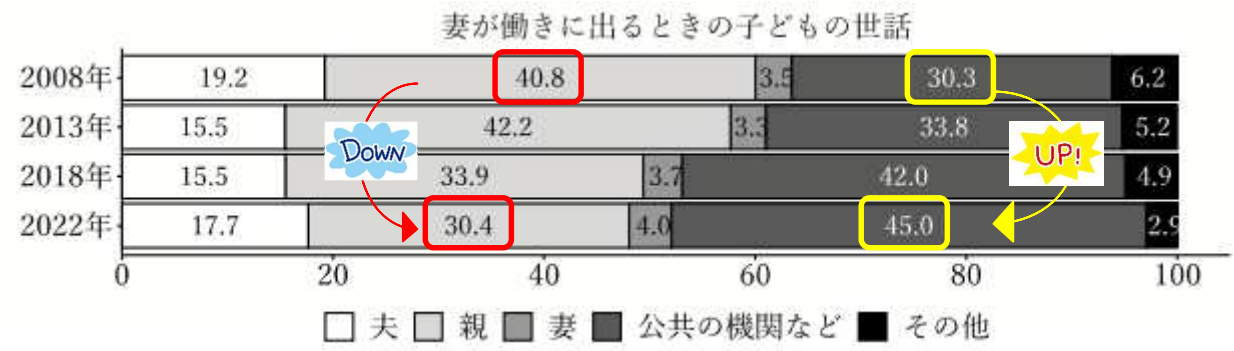
妻の平均育児時間は依然として長いが、夫の平均育児時間も確実に長くなっていることがわかる。

３．妻と夫の間での育児分担割合の平均



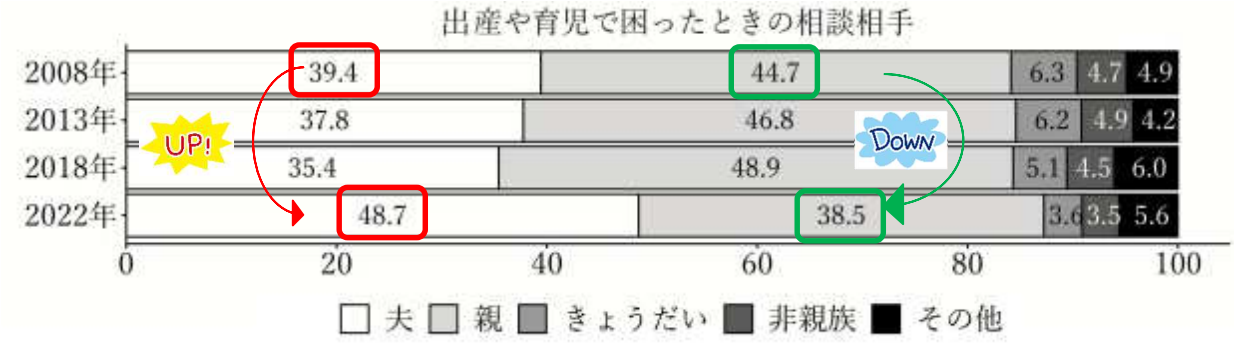
2008年以降、妻と夫の育児分担割合は妻が８割前後、夫が２割前後でほぼ横ばいで推移しており、妻の分担割合が夫を上回っているが、2022年調査では78.0%と過去4回で最低となった。

４．調査年別にみた、もっとも重要な支援提供者：世話的（長期的）サポート



「妻が働きに出るときの子どもの世話」については、「公共の機関など」が45.0%と最も高く、「親」が30.4%で続く。2008年と2013年においては、もっとも重要な支援提供者は「親」だったが、2018年から「公共の機関など」が上位となった。2022年も同じ傾向が継続している。

５．調査年別にみた、もっとも重要な支援提供者：精神的サポート



「出産や育児で困ったときの相談相手」については、2008年から2018年までは、もっとも重要なサポート提供者は一貫して「親」であり、それに続くのが「夫」であった。しかし、2022年にその傾向は逆転し、「夫」がもっとも重要な相談相手となった。

これらの調査結果をどのように感じられましたか？　年齢・性別・立場・環境によって捉え方はそれぞれ大きく違うかもしれません。女性の更なる社会進出が望まれる中、これからも家庭機能への価値観は大きく変化していくでしょう。社員（職員）の皆さんやご家族と話してみると、大きな気づきがあるかもしれませんね。

以上（作成：倉井舞）